長崎で被爆したオランダ人元捕虜ブッヘルさん長崎を訪問

戦争中長崎市幸町にあった福岡俘虜収容所第 14 分所に収容され、1945 年 8 月 9 日原爆投下の被害に遭ったオランダ人男性ウィリー・ブッヘルさん（93 歳）が、4 月 18 日来日しました。ＰＯＷ研究会では会員 8 名がブッヘルさんの来日に合わせて長崎を訪れ、ブッヘルさんと行動を共にしました。

ブッヘルさんは今年 3 月に被爆者健康手帳を取得したばかりです。外国人でこの被爆者手帳を持っている人は、40 か国約 4450 人（朝日新聞 2013 年 7 月 10 日朝日新聞調べ）。長崎で被爆した元捕虜でこの手帳を持っている人は、ブッヘルさんらオランダ人 2 名と、オーストラリア人 1 名だけです。

ブッヘルさんと娘さん 3 人そして通訳のハュス・綿貫葉子さんら一行は、4 月 19 日に長崎駅に近い福岡第 14 分所跡地を訪れ、説明板に花を奉げました。次に原爆資料館へ行き、捕虜収容所建物の模型や捕虜が映っている映画フィルムを見、捕虜が収容所で描いたスケッチなどを閲覧しました。

福岡第 14 分所跡地のブッヘルさん（右端）

同日午後は原爆資料館ホールで、韓国やオランダそして日本の被爆者の戦後の生きざまをインタビューでまとめた、東志津監督の映画「美しいひと」の上映会が行なわれました。ブッヘルさんも出演している映画で、上映後は舞台上でブッヘルさんに対するインタビューが行なわれました。

その夜は長崎で平和のための活動している諸団体による歓迎夕食会が行われました。ブッヘルさんは、「被爆者手帳をもらったが、これは被爆したことの認証である。今までの苦労を認めてもらうことにつながるし、子孫にとっても大切な事だ。私は恨みも仕返しも考えていない。この認証を得ることで平和に繋がるということをもう一度確認したい。」などと語りました。

長崎市長とブッヘルさん

20 日をご家族だけでゆっくり過ごしたブッヘルさんは、21 日 11 時から長崎市役所を表敬訪問し、田上富久市長と会見しました。多数の報道陣が詰めかける中、ブッヘルさんは被爆者手帳交付に対するお礼と、この手帳により自分が被爆者と正式に認定されたことは重要である、などと述べました。

同日午後はブッヘルさんが強制労働させられていた三菱長崎造船所を訪れました。会社側は造船所内部の見学を拒否したため、外から工場をながめました。ブッヘルさんは、当時の作業の状況などを思い出して、懐かしそうに語ってくれました。

造船所にてブッヘルさん

尚ブッヘルさん来日の詳しい記録は、当会ＨＰの活動報告欄に“長崎フィールドワーク報告記”として掲載する予定なので、そちらも合わせてご覧ください。

（小宮まゆみ）